

編集後記

諫早水害から60年を迎えた今年7月25日に、シンポジウム「防災・減災フォーラム2017 in 諫早—諫早大水害からの教訓と自然災害に対する備え—」が諫早市で開催された。このシンポジウムを契機に本号の特集を企画していただいた。拝見して、諫早水害の教訓を風化させないための活動がずっと続けられてきたことを知った。この豪雨の24時間雨量1,109.2mmが永らく日本記録であったことは知られていても、この水害の実態はあまり知られていないように思われる。当時の、大沢網一郎氏らの調査報告（気象学会誌「天気」第4巻9月号と12月号に掲載。「天気」は気象学会HPからどなたでも閲覧可）とともに目を通すと、今この災害が我々に伝える教訓が鮮やかに見えてくる。本号には、今年7月に起きた九州北部豪雨災害の調査報告が掲載されている。この豪雨では43名の命が奪われた。豪雨から身を守るための情報や対策は60年前に比べるとずいぶん増えたが、被害軽減に効果を充分発揮しているようには思えない。巻頭言では、気象庁による防災情報の改善が地域住民の安全確保に必ずしもうまく役立てられていない現状が指摘されている。防災情報を市町村の警戒避難対応に役立てるための、気象予報士や気象予報士会の、地域に根ざす活動が紹介されている。林 拙郎氏らの豪雨評価方法の新たな試みに関する論考とともに、これらの記事と論文に目を通していただけることを期待している。
(編集委員：諏訪 浩)

編集委員会

委員長	米山望 (京大)	伊津野和行 (立命館大)
委員	東良慶 (大阪工大)	王功輝 (京大)
	牛山素行 (静岡大)	片岡俊一 (弘前大)
	大西正光 (京大)	坂本麻衣子 (東大)
	清野純寛 (東北大)	澁谷拓郎 (京大)
	柴山明寛 (東北大)	澁川典昭 (信州大)
	諏訪浩 (東大)	高橋智幸 (関西大)
	高野伸栄 (北大)	辻野和彦 (福井高専)
	立川康人 (京大)	飛田哲男 (関西大)
	堤大三欽 (京大)	能島暢呂 (岐阜大)
	西嶋一茂 (香川大)	畑山満則 (京大)
	野田俊夫 (熊本大)	藤本一雄 (千葉科大)
	藤見紀男 (京大)	松村伸二 (香川大)
	牧村衛 (京大)	山口弘誠 (京大)
	三守克也 (京大)	横松宗太 (京大)
	脇水健次 (九州大)	

平成29年11月30日 発行

自然災害科学 Vol. 36, No. 3

発行者	日本自然災害学会 (代表者 寶馨) 〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所内 TEL: 0774-38-4278 FAX: 0774-38-4622 e-mail: sai@jsnds.org http://www.jsnds.org/
郵便振替口座	01050-0-55275 日本自然災害学会
振込銀行口座	ゆうちょ銀行 四四八(ヨンヨンハチ) 普通 0306640 日本自然災害学会
振込銀行口座	みずほ銀行伏見支店 普通 1019459 日本自然災害学会 代表者 寶馨
印刷所	株式会社 イセブ 〒305-0005 茨城県つくば市天久保2-11-20 TEL: 029-851-2515 FAX: 029-852-8501

乱丁・落丁本はおとりかえします。印刷所まで御連絡下さい。